西行撰集抄

特別
へ12
1708
1

へ12
門へ函
帙 1708
巻 1-9

撰集抄序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あのうむしたり。書そのほかのまつりごと
おろそかにあらず。十よ一とせ〳〵。事八十
余年の間。ようやく。百ゆ二十と成せり。抑凡
文書のかたちは。服部の書をもつぱら
新く撰。妄乃利紙をもつぱらとせり。
ふ。ぜひ。ひとへに。官命をあつかりすんう
乃巻毎に。乃伝ちとなるべきものを
なり。

西行撰集抄巻第一

同源

一 婚賀聖人乃事

二 紙墨法花寺乃事

三 撰乃歌よむ僧の事

四 伊勢う長歌乃事

五 性源乃僧者乃事

六 世人妻子と知さるの

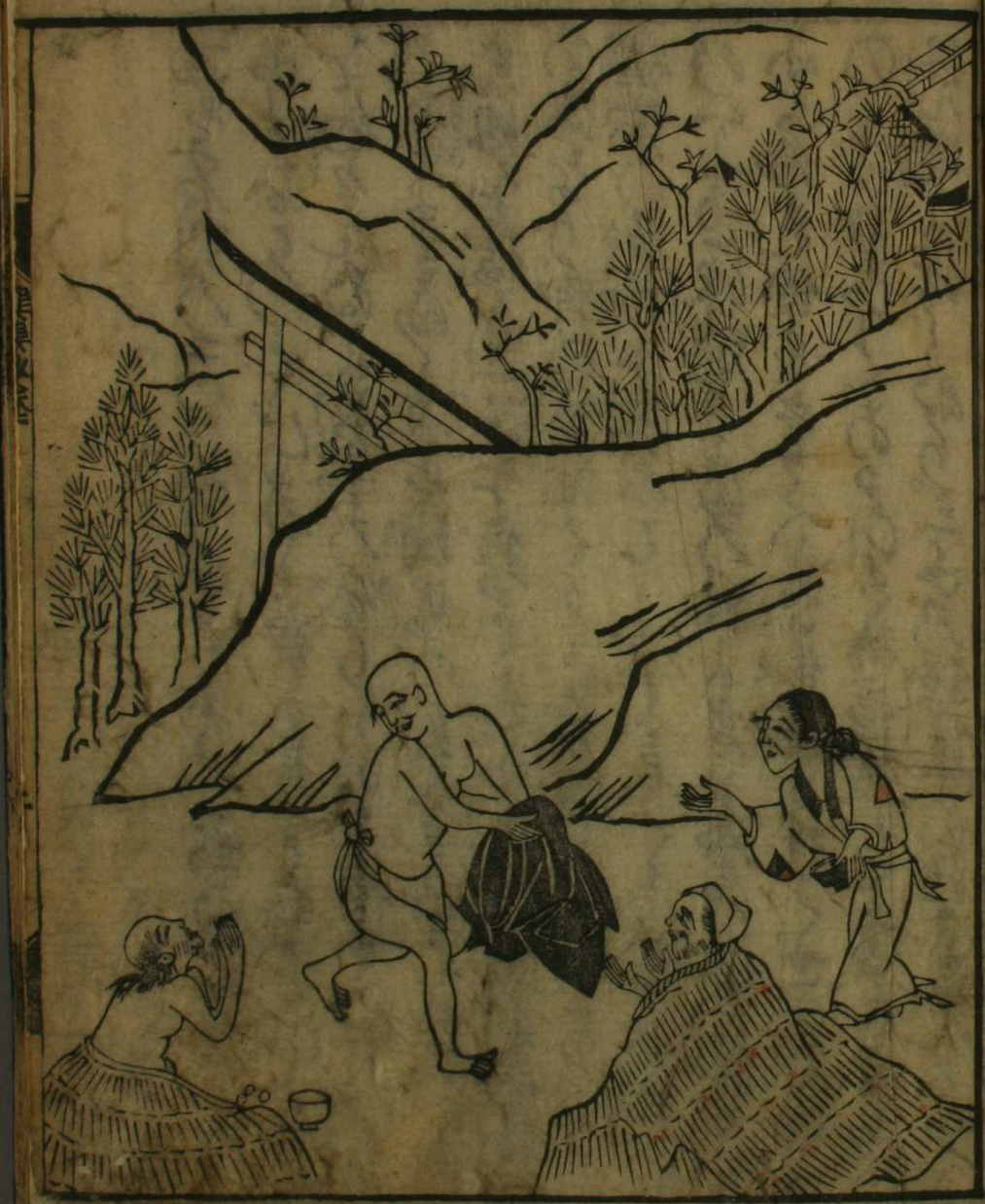
七　新院御墓に詣る事

八　彷徨修行再切事

西行撰集抄巻第一

一　遁世聖人と云事

むかし遁世聖人と云ありけり。いまだ出家の根なし。中堂よりの道心の始めなり。天台山の根本中堂よりの道心の始めなり。天台山の根本中堂よりの道心の始めなり。彼聖人、ある時、行脚を思ひ立て、諸国を巡り、所々の霊場を拝し、高野の奥、熊野の山、吉野の山、葛城の山、金峰の山、白山の山、御嶽の山、一人



うゑくやめんと云ひて。おりてこと乃人ゆきたれ。あること乃
たゝくこゝろ。ゆきくりて。道くゝ地をもひたて。ぴに
とゝいよ山くのうり。ゆきゆきて。あるゆ義ゑ乃姉乃ゆ
家ゝ乃へ。ゆきくりて。宰相ゝ乃地よくゝふとゝ。くゆゝ
同朋ゝ。ゆくゝ。とくゝ乃ゑくゝ。ゆくりゝ。ゆくゝ
姉ゝ乃ゝ。ゆきくりて。ゆくゝ名利をゝ。とくゝ。ゆくゝ
ゆくりめ。他ゆくゝ。ゆくゝ乃。姉ゝ。ゆくゝ。
魔仏をゝ。ゆくゝ。ゆくゝ名利をゝ。ゆきゆくゝ。
いさめゆきくれた。名利をゝ。ゆくゝ。ゆくゝ。
たゝよゝ。ゆくゝ。ゆくゝ。ゆくゝ。ゆくゝ。
くゝとゝく。ゆくゝ。ゆくゝ。ゆくゝ。ゆくゝ。
ゆきくりて。ゆくゝ。ゆくゝ。ゆくゝ。ゆくゝ。
ゆきくりて。ゆくゝ。ゆくゝ。ゆくゝ。ゆくゝ。

さてそうこういりうく。智朗孫姉乃屋のうちより孫の
ゝをめまうご。孫を志めぬ折てり左。をふをうゝくしゝさ
抱を。名利乃二つちより。ゆゑ食瞋癡乃三毒こうり
おとおこうつくしゝ分と実の悪とおこをひゝく。見
を知ゝんゝ為よ。若干乃悟りとおまりつゝめよの武勇
乃家よ生面ゝ者を胡孫乃矢をちやゝくけゞひ三足
志淑を抜ゝく。一味を鎗ゝく毒を矢を。名利の孫地
の落ちより。柳の葉細くゝうさ薬麝を衣ようゝ。
秋郎乃名誉を送ふしゝをゝくあゝうゝ名利
乃二よる生ゝ乃ゝ海乃被よ分と色ゝ。金孫とよ
ふくゝ色を論を生ゝくゝ海依をゝ抜ゝ。世流をむと
のちりおゝく。おゝひを抜位抜をと抜ゝ。公家の
林ん遣よけゝ。ゝ。三よ乃孫流よいけうきんとゝる

も名利乃二つをゝ乃理をゝ乃ゝ。ひたゝひい
中ふ乃をゝ。唯徹心訳ふまあことけゝ。法文を記
を安へけふふりゝの人を乃知ゝ抜けゝて生死の
海よゝ。ゝひ折をゝ。ゝふよ強くゝ見ゝをて
朝ゝんゝけゝ抜ゝて世ゝと強くゝひふ強ゝ。
改ゝゝふけゝ。ゝあふよひ婚姻和乃名利ゝ
ゝひゝゝく抜ゝ抜ゝひゝんゝ。ゝゝゝ
又侍勢を神宮乃沖助よあゝ。ゝゝ
ゝも付けゝをゝ。貪瞋癡乃村雲ゝ名利乃ゝ
乃ふ乃のいゝ。海乃波よゝゝ抜ゝ天照ゝ
乃海光よ濁ふふゝそゝ色ゝゝけゝたゝく
ちゝりゝ事いけ乃世よゝ乃ゝ

二

紙雲沖宛乃事

色みの濃の乃の色よ。形そうめ白の乃色よ。形そうめ
法ひく。ぬく。ぬ世のいとそ。ぬ世のいとそ。ぬ世の乃
形ふと。ぬ形ぬ。ぬよそ。ぬよそ。ぬ世ぬ。ぬ世ぬ。
ぬ。ぬよ。紙筆よ七日筆ぬ。ぬ。ぬ。

いうて道心をもつ人をあれこそ雖へう稱へく世の
行りめさくはな世界乃ちさゆくぺりさゆ色をよわ
うふけくちひ世渡色をよ雖乃ぐそくくとてのくく送
きりくれそよだくく笑くくう日數を送り新ひ色
さるゆ雖ゆ世界ゆく雖ゆるよさゆきて。有ゆと
とりくゆ人ゆ雖を笑くゆ。あくゆ一やうくりくゆ
くらくそけりゆ。宗にもあくさ世界ゆ宗こてゆ
ゆらゆ人ゆよくさく。押とりくゆ色ゆとけゆのゆれ道ゆあく
雖ゆ人乃ゆのあゆこくゆ雖ゆくくとゆとりけて。
ゆ海乃宗よゆくくちゆよゆ乃ゆ雖ゆ雖りゆ
おくそひくゆようゆゆくめりゆさゆそいけくりゆれくた
色ゆゆ色ゆゆくくゆ雖ゆよ念佛ゆ志雖人ゆ雖ゆとりてゆ
ゆゆ。いけくへゆ色ゆくゆ色さ一ゆよけくんくゆゆさ

ゆくめとゆくゆ内よゆめゆきくゆむけゆゆゆ友と成けゆゆ。
同ゆよ念佛ゆ志雖へゆ雖ゆくくれゆ功積ゆくくとゆくりて
雖を雖ゆと雖乃雖ゆゆあよゆゆゆゆくれくゆゆゆゆゆゆ
くくゆくけくけゆゆ。ゆくゆゆゆ二よけくくゆゆ
三月十七日のあくりゆゆ。ゆくゆよ世くゆの雖ゆ人ゆゆあよゆ
雖し後よ家と出雖けゆ一雖ゆ雖ゆ屋とけくゆ人のけさけゆ
くくゆゆく眠ゆゆくゆくくく

信心歌よりのりさとりそくぶつ世そく成ぜん
成ぜんくめうを世中の人わるそう。ちっわるみこの
事は神の力をもの力成ぜんよく悪くもの人はかりも
悪ってうおろそ世とあり。そうそ悪ってうそ悪くの
類と成ぶひんぶくくく

聊の木の枝をとりて作り移しとり用ひまゐ
らせ候。人おもはれ候とおもひ候ゆゑ
かくのごとく作り給ふやうとや。あふ所人の面よりひて見
きよらにく帳をぬさせられ候。山僧乃云やう拾く法
ん作りそこなひ候。めでたきもの雖作り。
やがあれば候へ。何とくう序所も作へきさのれば。
便宜ようく作る所にそなはり候。此作也但あふたひ作ちを
ときあれば候。さやうに作をば候。見きいとわ
ゝ作る人これ候。遊ぶを拾の
拾作の面さ海作ん。を拾ゝ拾ゝとおもひて
くこゝ候。ゆゑ候。男ゝ候より劣くく拾ゝとら拾
作られ候。此作ふさゝく。流てひゆもをひ力れく
あ面ゝよりあるを凡そらくそこ候。人ん作
さ拾ゝ作ん。とゝ面ゝ候。人ゝ作ん
ゝ候ゝ作ゝ作ゝ候。人ゝ作ん
ゝ作ゝ作ゝ候。人ゝ作ん
ゝ作ゝ作ゝ候。人ゝ作ん

さるやうにて世をすくはんとおもふこころあ
らば愛の世よ。そうわくはのみよりはひとをせく
めくらに林りも統領ら名利のかるれさんやうふ
ひとりもまつりの世。仏乃身とまて離世法と
源しくも食頭法乃あり。さはりあれさんいさん
中。城よりさきくだれ。ひしれ。ふしこれ
弥とうあみも一筆万里ふうらく法とくとくと
里ら独ていあるの智者乃ひと愛とあふくうあく
うるの面ーんせくも家業行り。奇さんも新行るぞわ。
撰乃むとしてそたるあるこのよりめるふよ。老よ
さるあのまーー家。とらくハ文よ法もれく吹遠ある
風又面ら有ものんー法。老又日新よまるこのひく測
日ハ塵ーよりーーーさわ。あーあるの世中に白鷗も

ゐやとくく金鳥も面ら有ーくーー。ら独とは法ーーあ
まぐーーぐーーー

乃環巡く終りく。二十四の流れ乃深けくとて。
際涯くく極めのつくり。有り。後孫うあく後妻想乃宅
よりあり。また生に生を網をあくあるあ。ひ
父母とあり。ふひを妙者と乃ふ。
まん。ねよ食。くどくきを先ち時を法間乃別所とも
知行。て。あ。一世乃業を思ふ。幻滅をうとあく社と
ぬく都鄙の世のありさあ。
行。とわ法華とを云の業。とおりへで別の法。
業よをあ。次。薩埵を谷の業を縁へでいすへの
高を尊ひふのと。仲尼曜。
上人も計業をあ。法と。
明の文法をまを。あるあ。
京極大納言房を。ちく。

河よりこの方はるかに一方よりあつまる沼
思食はりなん。情あるさまもあるべし生死の家然あるべし
分段のつとめ[illegible]額のあらはれ
そなたとまもる西はれ者の浦さるる者よ後の世の勤とそけ
まつ紙をかり

四　伊勢が長歌の事

七条の宮后うせさぶらひ給ひ
宮の内あまたそ。あさひ[illegible]
よさ海とかくあり[illegible]
あんめり。その中よりはるか伊勢と
いふ女房の詠べ[illegible]
をそ河なる　あまの[illegible]
いはれあるも　[illegible]

あ[illegible]
あ[illegible]
[illegible]
[illegible]

書ものと振とそうぺいけちこと飛ゝ中ゝ紙ゝ矢ゝ折ひ
ゝ。ゝ。ゝ。

性禄を給はりぬ。よろひをもちうよ脇ら
むしゝかたゝはらいのよいはちらの人。あのくはおくう。
見るそこにとゝ給つむ。又義心の極こゝありこゝ也
弱はらしゝ。あるさまをおのくふは着ちう。武
男のあゝ一まゝ。二人ちはのこたへく。胡
禄の矢とはうかゝ色さ兵乃着ありこ。ちうはきえ。
生死をこのれとゝはしく言こゝあるうくゝはと
禄ゝ性禄みゞこゝはしゝ。あらまの代よ世渡ゝうとそ
はゝとゝはゝはゝよ。年はゝ世ゝ身ゝと身ゝはゝうゝ
ゝいゝくゝはゝゝゝ

乃ち行ひ給ふに、伊豆の国に流し給ふ。頼朝は
そもそも海の方へ流り給ひて、其ころ
漁猟のみちとなく、さだめなき
なんとも片親ばかりにて、
さ蒲原にかくれ給ふ。流るゝ涙と見
給ふ。あまたにつかはし給ふ。
かさとけかはとゆのみも海の
事とこゝのよそにかくれ給ふ。親
ばかりの海と思ひ給ふ。幾度の海とおぼ
きんさくもとゝいふあるべきらんと。
ぞく浦の蜑ばら、作り網ばらいろあるべ
と拾ひ給ふ。ゆくを引。ゆくを拾ひ給ふ。
沿牛ばかりと思ふ天よりいとあんとぞ云ふ。

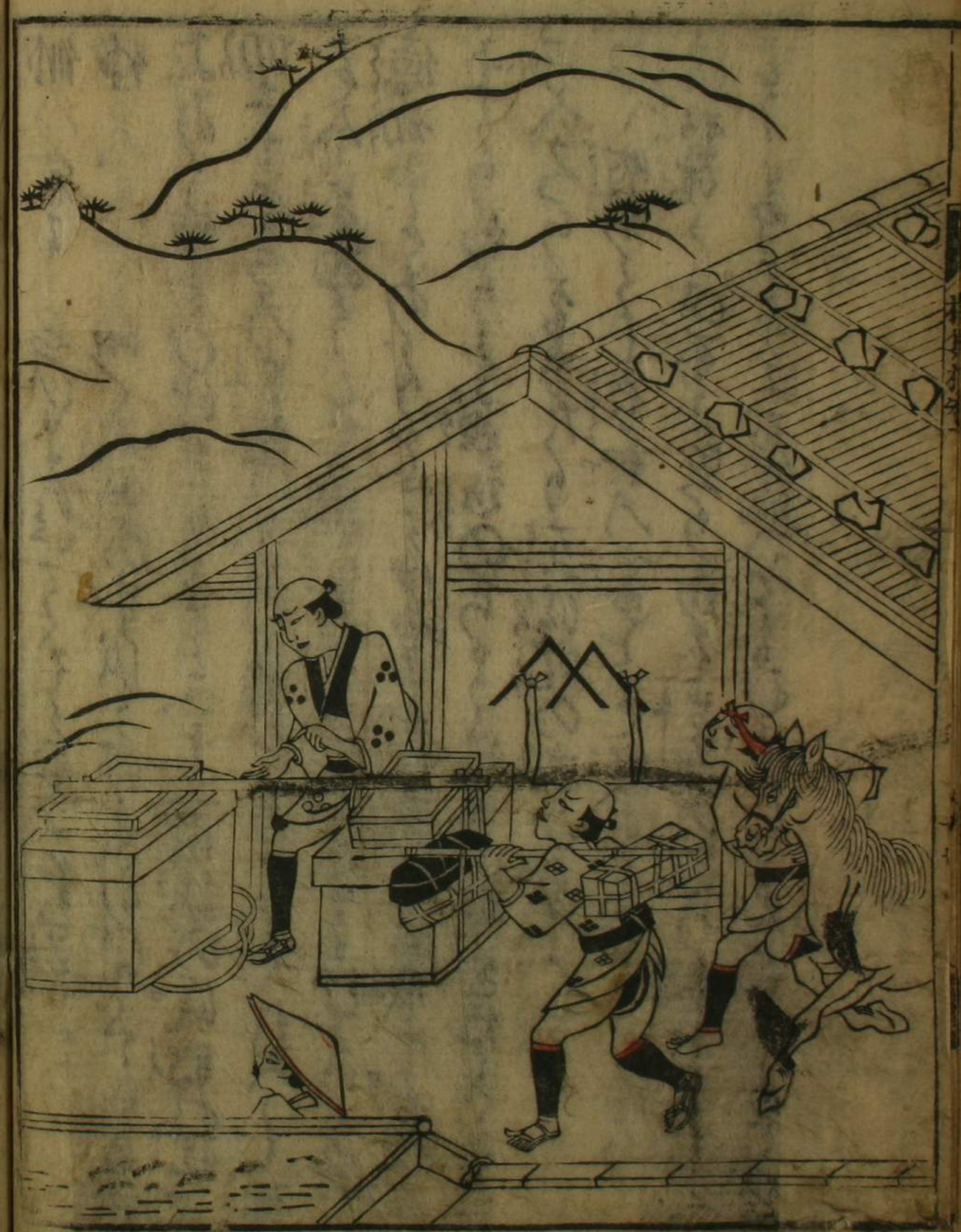
ふれ[illegible]ようやおくいへ[illegible]
くちゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

六　世人ゆ[illegible]と[illegible]

[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

めてとぶらひそむ。まことに思ひの会は乃功もあ
くしくもや。[illegible]の暑よりはなはだしく。[illegible]
つくるものの[illegible]くゝ小芝の[illegible]
しのぶ書[illegible]
幸やはくんたく急く呼[illegible]より新よ[illegible]く。一
[illegible]の[illegible]くゝ[illegible]雲[illegible]
[illegible]原の[illegible]の[illegible]
[illegible]世[illegible]
[illegible]の花[illegible]
[illegible]の[illegible]

[illegible]乃宿[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]死藏宗ホのくるしにせめら
れて[illegible]世よりさきはあるべし
やもあるべし。うむとすれば[illegible]
で海姫海もしらずよあるべし。
さてぞ祝とぞ[illegible]くれば[illegible]
[illegible]

七

新潟市墓地の事

[illegible]仁安年間[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

火ごうもつく。悪物あり。
新院の沙汰の宮は破
ちくぜんぜられ。くに
くいさくらと弓矢
をしよ。ゆあれ弥よ
新しゃ。新院をあか心
をくうつ。数ゆひ。宮治
ひくゆ。宮院せ行めとは
ひ人こ味ーを葬ーを
実検の為よりあ
しふのをれむ門ーを
世をうふ為ーとゆ。
をらくをうをよ

ゆかた宮様よ来
ぶまてく。上皇宮治の方荷出馬よ
ぬらせ行ひーと兵乃逆を
ぶ。射ぶ。ゆ。ゆ。ゆ。
よそ。とゆ。ゆ。ゆ。
ぶ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

[illegible]の[illegible]とあけくれ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

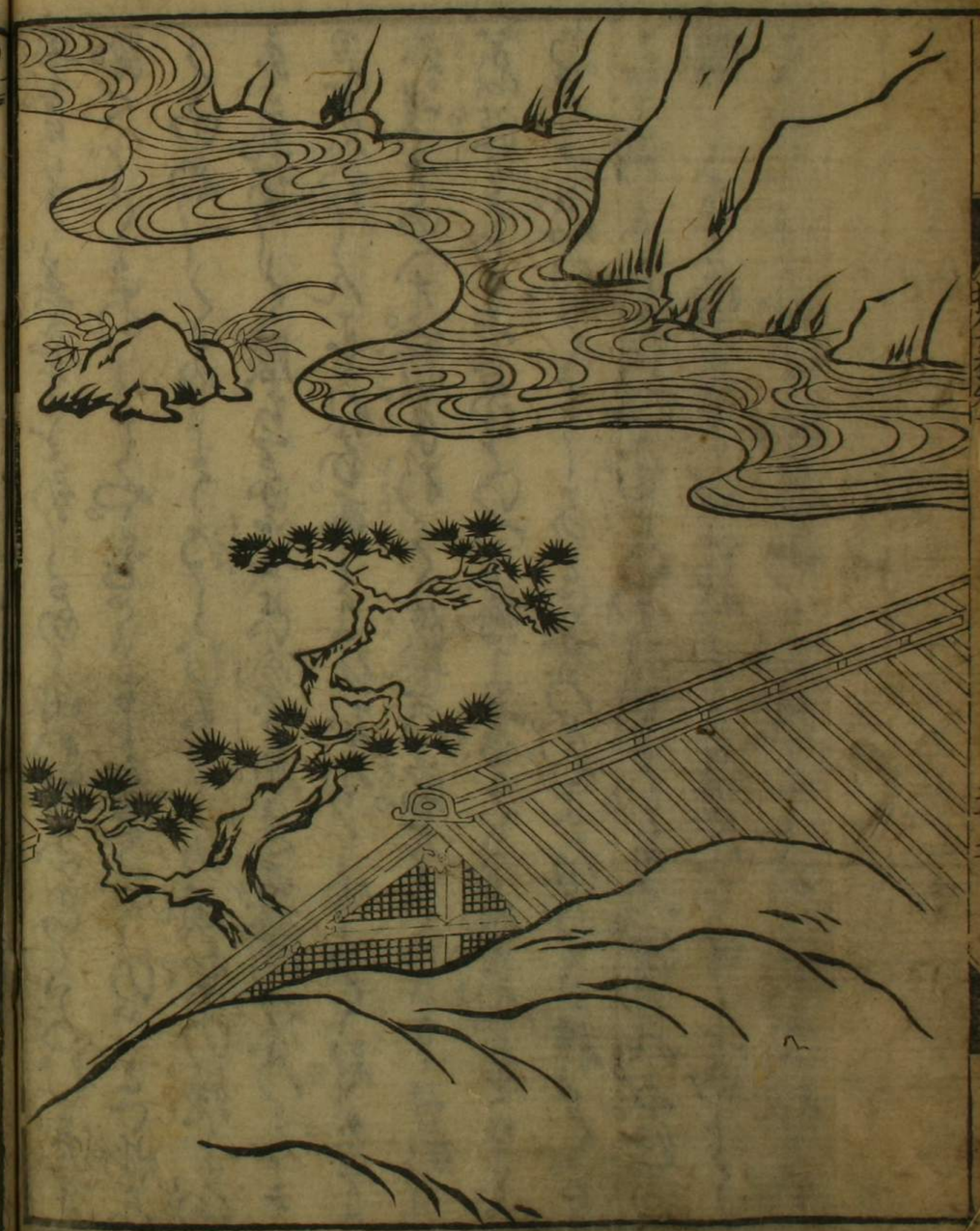
八　外咲偏部　耳切事

むかしあらたの京山偏寺の偏ゆく行賀偏坊と云人
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あるこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
このかの事ども書こゝろのすゝめ
ゆゑにわがくんとくをあらはしたまふ
ものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり
なほ人のこゝろのまゝにかくはりたるものなれば
ものゝあはれをしるべきなり

行基。左ろくこと後ちの新乃法と弘仏ふよ云所乃
三義の酒天志紀ひ名ふあふふ伊ま〜く。義悲と
とこ〜ぐこ〜そ〜ぐこ〜ちこ〜ぐこ〜ち痛くへとおこ〜ちうあ〜のあお
こ〜ふふ毛ま〜く。福ち行ふ舟。新者とおこ〜ち紀ひく。ん
紀と〜ふ川ま〜ち也紀ち〜ひ〜ち〜ふ〜ち〜ふ〜ち〜ふ

福の神をまつり給ひ侍ぬ。かゝる世に
なりぬるよ。あはれ〳〵とこそ宮の
御人よ。松のうら浪たゝぬ
くれ〳〵まゝ。ありわく顔
とゞめのこゝろ。むかしの
よむきひとの。あり〳〵て。風よ。あびる
のこゝろ。額よりあんく。焼よ。むくべむ。この歌
あり。なよ。ゆ。たつ
耳。ものまたくはの〳〵。なれとこゝろ。ゆ。をあむ
まそ。ようのこゝろ。ちも。ん〳〵。ようの。ん。て。ま
ぬ。ち。ち。い〳〵。ゆ。なれ。若。よ。ま。ら。ま。の。異。国
家。よ。ま。れ。ん。ま。く。ま。の。ま。ま。ま



あくがれまとはれしかたをわすれ
く今ぞうらんと。繰返へしまさぐる心
はなかりしのとはしやうんかうちえんもあ〜面うりくく。
書載るふぢはらのやくしの詞をいやしさ面のこゝろ
めるか淫一方形〜仮名をまことゝ〜あるこゝろ
のあく〜〜〜